「伝統芸能・行事を、蘇らせ現代・未来へ」

地域づくり人物リレー第20回

「伝統文化芸能掘り起こし協会」渡辺 幾雄さん（邑楽町）

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介してまいります。第20回目は、渡辺 幾雄さんにスポットを当て、お話を伺いました。

「伝統文化芸能掘り起こし協会」渡辺　幾雄さん

高齢者の一言からはじめた地域づくり

学生時代に学んだしの笛を福祉施設で披露した際、高齢者から「昔は里神楽があった。豊年万作踊りもあった。とてもよかった。もう1回見たい。」と言われました。私自身、子どもの頃に郷土芸能を楽しみにしていましたし、奉仕の精神から挑戦してみようと思い、41年前に当会を立ち上げました。

伝統文化を掘り起こす活動とは

当会は、北関東エリアを対象として、伝統芸能（里神楽、獅子舞、八木節、祇園囃子、豊年万作踊り、七草囃子、おみこし囃子等）の掘り起こしに加え、食などを中心とした年中行事の掘り起こしにも取り組んでいます。どちらも先人が残した大切なものですが、衰退の危機にあります。掘り起こした伝統芸能を祭りなどのイベントの際に発表するなど、これらの掘り起こし活動を通してまちおこし、地域づくりに繋げたいと思っています。この他、しの笛教室や講演会、伝統芸能についての相談事業を行っています。

生きた体験談が大切な資料

まず、最初に取り組んだのは八木節の掘り起こしです。当時は、かつて演じた方や観客として見学した方が多くいましたので、その方々から話を伺いました。掘り起こしの趣旨を説明すると、皆さん詳細に教えてくださいましたが、里神楽や獅子舞については、より専門的になりますので、お囃子の装飾音が部分的に抜けていたり、リズムに少し違和感があったりと、踏査に戸惑いがありました。町史や市誌、古老の生きた体験談など、大変参考になりましたが、踏査の基本である真正性や真実性を失わないよう逐条的に取り組んで来ました。

41年間で26ヶ所の支援

これまでに、26ヶ所の地域を支援し、様々な種目の伝統芸能を蘇らせました。関係者からは「伝統芸能の花咲じいさん」と呼ばれたりもしています。同じ演目の神楽でも、保存会や地域によって舞の所作や、お囃子、リズム、アンサンブルに大きな差異がありますので、完全復元させることはとても困難です。また、保存会内部での意見の相違や諸事由により、掘り起こし活動が休止してしまったり、支援の要請があったにもかかわらず受け入れを断念した地域もあり、非常に残念な思いをしたこともあります。しかし、伝統芸能に関する相談や、しの笛教室等の支援要請は、年々増加している状況にあり、やりがいを感じて取り組んでいます。

稲荷大明神の種まきの舞

重要文化財への登録を夢みて

全国的に見ても、伝統芸能の衰退が顕著なのが現実です。私は、これまでに2000人以上の会員に、あらゆるジャンルのしの笛を教えてきましたが、長期にわたり継続してハイレベルまで習得していただけません。八木節や里神楽獅子舞などには、ジャンルごとの指導者、専門家（師匠）は存在するのですが、掘り起こし活動に専門的に取り組んでいる専門家はほとんど皆無の様です。これからは八木節の音頭取りや里神楽の舞方、お囃子方（しの笛）等、ジャンルを超え専門的かつ総合的に取り組んでいけるような指導者育成の為の組織、機構づくりが必須であると考えています。

邑楽町の里神楽や獅子舞は、江戸時代後期頃からの伝統があり、大泉町や板倉町の里神楽へ大きな文化的影響をもたらしました。現在、群馬県指定重要無形民俗文化財への登録を目指し、保存、継承、啓蒙と、鋭意努力中です。特に、演目の中の「ひょっとこおかめの種まきの舞」は、まさに、伝統芸能の象徴たる日本の宝と断言出来ます。

好きな言葉

「一所懸命」・「一期一会」

時間や場所、誰それ問わず目標に向かい、何事にも素直に全力投球で取り組んでいく。この姿勢、過程が素晴らしいと思います。

また、様々な方との出会い、ふれあいがありますが、全てを受容し、瞬間、瞬時を大切にしています。

最後に一言

皆さんが住んでいる地域には、遠い祖先や先人が長い星霜をかけ、築き上げ、連綿と伝承されてきた伝統芸能や年中行事が必ずあります。掛け替えのない地域の宝、日本の宝ですが、全国的に見ても、この宝物が衰退化傾向にあります。形骸化は絶対に避けなければなりません。

今こそ、住民の皆さんや有識者、保存会、行政諸機関、関係者が一体となって『地域の宝は地域で守る。そして地域で継承していく』この強い理念と行動力を持って、新たな地域づくりへと繋がる「ニュー地域力」が必要な時節ではないでしょうか。